

## 熊本地震を踏まえた災害対策の充実・強化に向けた取組状況について（中間報告）

### 1 趣旨

平成 29 年度重点施策である「熊本地震を踏まえた災害対策の充実・強化」の取組みについて、5 月から 7 月までに実施したワーキンググループ（以下「WG」という。）による検討を踏まえ、中間のまとめとして報告する。

### 2 検討課題

被災地へ派遣した職員の報告や国及び自治体の報告書等を参考に、熊本地震の状況と区の災害対策の現状を踏まえ、8 つの課題を抽出した（別紙 1 「熊本地震を踏まえた災害対策の充実・強化に向けた課題と対策について」のとおり）。

### 3 検討体制

課題ごとに災害対策本部における所管課職員（係長級を中心とした事務担当者）で構成する 7 つの WG により検討を行った。

- （1）受援体制・職員体制班（2）ボランティア班（3）情報伝達班（4）支援物資班
- （5）健康管理班（6）避難施設班（7）罹災証明班

### 4 検討の進め方

検討を行う課題に対し、その解決のため、現時点で考えられる方向性を示した上で、現行の地域防災計画や職員防災行動マニュアル等の規定を踏まえ、対策の具体的な手法を検討した。

### 5 検討委員会・部会

地域防災計画検討委員会（部長級）及び検討部会（課長級）を 8 月に各 1 回開催し、取組状況や WG での検討結果等について検討を行った。

### 6 検討結果等

別紙 2 「熊本地震を踏まえた災害対策の充実・強化の検討状況」のとおり。

なお、8 つの課題のほか、防災課・危機管理課の検討事項についての状況も記載した。

### 7 今後の予定

平成 29 年	9 月	定例議会への報告（中間報告）
	9 月～11 月	WG による検討
	12 月	取組状況の最終のまとめ
		第 3 回地域防災計画検討部会・検討委員会
平成 30 年	2 月	定例議会への報告（最終報告）
平成 30 年度以降		地域防災計画等の修正

## 熊本地震を踏まえた災害対策の充実・強化に向けた課題と対策について

### I 多様な主体との連携強化に向けて

#### 1 受援体制の構築

##### (1) 実効性の高い受援計画の策定

災害対策本部編成員の参集を把握し配置するとともに、他自治体等からの応援職員の受入れや配置を円滑に行うためのコーディネートについて検討を行う。

##### (2) 応援職員の勤務に伴う諸環境の整備

他自治体等からの応援職員の宿泊施設、食事、応援業務に必要な資器材の確保等の環境整備について検討を行う。

#### 2 ボランティアとの円滑な連携

##### (1) 災害ボランティアセンターの開設に伴う課題の整理

災害ボランティアセンターの開設の手順や、区民センターが使用不能の場合の代替施設等について検討を行う。

##### (2) 被災者のニーズとボランティアのマッチング体制の強化

被災者のニーズとボランティアのマッチングが円滑に進むよう、コーディネーターの調整機能について検討するとともに、災対部局ごとに一般ボランティアに依頼すべき業務内容を選定する。

### II 区の防災体制の充実・強化に向けて

#### 3 持続可能な職員体制の構築

##### (1) 職員の勤務体制等の検討

災害対応の各段階における勤務ローテーション等のルールについて検討するとともに、就寝スペースとして利用可能な場所の確保等について検討を行う。また、職員の心身のケアのために必要な支援体制について検討を行う。

##### (2) 中・長期にわたった場合の避難所運営にかかる人員体制のあり方

避難所における交代職員の確保や勤務ローテーション、交代時間等のルール作りについて検討を行う。また、夜間の避難所の運営体制について検討を行う。

### III 迅速かつ的確な被災者支援に向けて

#### 4 情報伝達手段の充実

##### (1) SNS 等の活用による最新情報の提供

災害対応の各段階において、伝達すべき情報内容を整理し、迅速な情報発信ができる体制を整備する。

#### 5 円滑な物資の輸送

##### (1) 物資集積拠点の円滑な運用方法についての検討

物資の集積施設（スポーツセンター等）において、物資の円滑な搬出入及び集配作業等が行

えるよう、施設の利用方法について検討を行う。

(2) 物資拠点における人員体制及び集積・輸送体制の整備

物資の集積拠点における職員体制や集積拠点への配車、避難所までの輸送ルート等について検討を行う。

(3) 避難所との連絡体制及び物資の管理体制の整備

避難所からの必要な物資の連絡方法や在庫管理票の作成等、物資の管理体制について検討を行う。

## 6 健康管理体制の充実

(1) 避難所における健康管理及び応援体制を含めた職員体制の構築

各避難所に派遣する「保健活動班」や避難所の「救護衛生班」等との役割分担と人員配置のあり方について検討するとともに、都福祉保健局への応援要請後の職員の役割分担等について検討を行う。

(2) 指定避難所以外への避難者の健康管理の支援

指定避難所以外に避難した者の健康管理について、支援の範囲や支援方法等について検討を行う。

## 7 避難施設の充実

(1) 指定避難所の収容人数が超過した場合の対策

指定避難所の収容人数を超えた避難者が避難してきた場合の対応について検討を行う。

(2) 指定避難所以外への避難者の対応

指定避難所以外への避難者の状況について、具体的な把握方法及び支援方法について検討を行う。

(3) 指定避難所における要配慮者の対応

要配慮者が指定避難所で生活する上で必要な居住スペースや日常生活面の支援等について検討を行う。

(4) 避難所の縮小・統合の手順

避難所の縮小・統合時の施設の指定や避難者への対応について検討を行う。

## IV 早期の復興に向けて

### 8 迅速な罹災証明・被災者生活再建支援業務の実施

(1) 罹災証明書の発行業務に係る応援職員を含めた職員体制の構築

「罹災証明発行事務担当」が行う罹災証明発行事務の職員体制について検討を行う。

(2) 罹災証明書等の業務手順の整備

東京都被災者生活再建支援システムの利用を想定した罹災証明発行事務等の業務手順の整備について検討を行う。

## V その他 防災課・危機管理課の検討事項

- ・災害対策本部の機能の強化（15階防災センター及び5階補完機能）の検討
- ・避難所の受入れ可能数の算出見直し ・備蓄物資の充実・見直し
- ・東京都被災者生活再建支援システムの導入 ・災害時事業継続計画（BCP）の検討

## 熊本地震を踏まえた災害対策の充実・強化の検討状況

## 視点 I 多様な主体との連携強化に向けて

## No. 1 受援体制の構築

WG…受援体制・職員体制班

<b>1 検討課題</b>																			
(1) 実効性の高い受援計画の策定 (2) 応援職員の勤務に伴う諸環境の整備																			
<b>2 検討内容</b>																			
<p>&lt;第1回 WG&gt; 検討課題について、共有を図るとともに、区における人的支援に係る受援体制や都及び協定自治体への受援要請業務の現状について確認した。</p> <p>&lt;第2回 WG&gt; 災害時における区の職員体制及び参集可能人数について、現状を確認するとともに、必要な受援要請業務について検討した。</p> <p>&lt;第3回 WG&gt; 応援職員に対する活動拠点や、宿泊施設等の便宜供与について検討した。</p>																			
<b>3 検討結果（主な意見など）</b>																			
<p>&lt;受援計画の策定について&gt;</p> <p>□ 受援体制については、現行の職員防災行動マニュアルにおける体制を基本とし、災对本部事務局が都総合防災部を通じた広域的な受援や協定自治体との窓口となり、災対各部では都の各局と個別に調整を行う。その際、災対各部での受入状況の把握や過不足等の全体調整を行うため、災对本部事務局に受援担当部門等の専門セクションの設置について検討する。</p> <p>□ 受援要請業務について、被災地における応援の実施状況と文京区地域防災計画に規定されている業務を比較し、次の9業務を都及び協定自治体への主な要請業務とする（網掛けは、新規追加業務）。なお、詳細な業務内容については、今後検討する必要がある。</p> <table border="1"> <tr> <td>No.1</td> <td>災害対策本部の運営支援</td> <td>No.6</td> <td>応急危険度判定業務支援</td> </tr> <tr> <td>No.2</td> <td>避難所運営支援</td> <td rowspan="2">No.7</td> <td rowspan="2">住家被害認定調査、罹災証明書交付事務支援</td> </tr> <tr> <td>No.3</td> <td>医療・保健活動の支援</td> </tr> <tr> <td>No.4</td> <td>物資集積拠点支援</td> <td>No.8</td> <td>生活再建支援窓口業務支援</td> </tr> <tr> <td>No.5</td> <td>公共インフラ応急措置活動支援</td> <td>No.9</td> <td>災害廃棄物処理支援</td> </tr> </table> <p>□ 迅速な受援要請を行うため、災対各部において、業務ごとに①必要な人数、②必要な期間、③活動内容、④活動場所、⑤資格・経験の必要性の有無、⑥必要な資器材などを明確にすることが必要である。</p> <p>&lt;応援職員の勤務に伴う諸環境の整備について&gt;</p> <p>□ 宿泊施設については、応援自治体が確保することを原則とするが、必要に応じて災対総務部において、利用可能な宿泊施設を提示する。宿泊施設は、区有施設の外、今後新たに協定を締結する団体の施設を候補として検討を進める。</p> <p>□ 食料・飲料水等については、応援側による携行を原則とする。</p> <p>□ 活動拠点について、執務スペース及び電話・インターネット回線は、災対各部で用意し、待機場所は災対総務部で用意する。また、必要な資器材は災対各部で準備することを原則とする。</p>		No.1	災害対策本部の運営支援	No.6	応急危険度判定業務支援	No.2	避難所運営支援	No.7	住家被害認定調査、罹災証明書交付事務支援	No.3	医療・保健活動の支援	No.4	物資集積拠点支援	No.8	生活再建支援窓口業務支援	No.5	公共インフラ応急措置活動支援	No.9	災害廃棄物処理支援
No.1	災害対策本部の運営支援	No.6	応急危険度判定業務支援																
No.2	避難所運営支援	No.7	住家被害認定調査、罹災証明書交付事務支援																
No.3	医療・保健活動の支援																		
No.4	物資集積拠点支援	No.8	生活再建支援窓口業務支援																
No.5	公共インフラ応急措置活動支援	No.9	災害廃棄物処理支援																

## 視点Ⅰ 多様な主体との連携強化に向けて

### 4 今後の検討事項

- 東京都が進めている受援計画の検討状況を確認しながら、受援担当部門の組織化やコーディネートの方法など、都の計画と整合がとれるように区における受援体制について検討を行う。

<b>1 検討課題</b>
(1) 災害ボランティアセンター（災害VC）の開設に伴う課題の整理 (2) 被災者のニーズとボランティアのマッチング体制の強化

<b>2 検討内容</b>
<p>&lt;第1回 WG&gt; ボランティア班における検討課題について、部会員との共有を図った。</p> <p>&lt;第2回 WG&gt; 災害 VC の代替施設について検討するとともに、ボランティアへの要請業務について、災害の段階ごとに整理を行った。</p> <p>&lt;第3回 WG&gt; 段階ごとに整理したボランティアへの依頼業務について、受付時の要件の必要性を検討するとともに、ボランティアニーズの収集方法について検討を行った。</p>

<b>3 検討結果（主な意見など）</b>																
<p>&lt;災害 VC の開設について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 災害 VC によるボランティアのマッチングの開始時期については、中期（72 時間以降）を目標とし、受け入れ態勢の準備を行う。</li> <li><input type="checkbox"/> ボランティアの募集に当たっては、事前にHPを準備する外、他地区の社会福祉協議会に協力を求めるなど、迅速に対応する。</li> <li><input type="checkbox"/> 区民センターが被災した場合の災害 VC の代替施設（案）として、ボランティアへの説明やミーティングの場所が必要となることから、区民ひろば及び産業とくらしプラザを候補とする。ただし、常時使えるとは限らないため、複数の選択肢を持つ必要がある。</li> </ul> <p>&lt;被災者のニーズとボランティアのマッチングについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ボランティアへ依頼する主な業務の整理結果については、以下のとおりである。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">場所 時期</th> <th style="text-align: center;">個人宅など</th> <th style="text-align: center;">避難所など</th> <th style="text-align: center;">災害 VC</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">初動期</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がれき撤去</li> <li>・安否確認</li> <li>・要配慮者への対応</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所運営の支援</li> </ul> </td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">中期</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の片づけ</li> <li>・物資の配給</li> <li>・屋根のブルーシート張り</li> <li>・ペットの世話</li> <li>・外国人対応</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炊き出し支援</li> <li>・物資の仕分け、配付</li> <li>・高齢者支援</li> <li>・子どもの世話</li> <li>・物資集積所の活動支援</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害 VC の運営支援</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">後期</td> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所からの移動介助</li> </ul> </td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 網掛けの業務については、一定の知識や経験が求められるものであり、マッチングの際に「資格や経験の有無」を確認することで、適材適所の配置につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ボランティアニーズを、事前にパターン化しておき、迅速なマッチングにつなげる必要がある。</li> <li><input type="checkbox"/> 現地のボランティアニーズの収集を行う人材として、地域活動センター班・避難所開設運営班に加えて、地域福祉コーディネーター、民生委員、ボランティア等を候補として検討を深めていく。</li> </ul>	場所 時期	個人宅など	避難所など	災害 VC	初動期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がれき撤去</li> <li>・安否確認</li> <li>・要配慮者への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所運営の支援</li> </ul>		中期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家の片づけ</li> <li>・物資の配給</li> <li>・屋根のブルーシート張り</li> <li>・ペットの世話</li> <li>・外国人対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炊き出し支援</li> <li>・物資の仕分け、配付</li> <li>・高齢者支援</li> <li>・子どもの世話</li> <li>・物資集積所の活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害 VC の運営支援</li> </ul>	後期		<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所からの移動介助</li> </ul>	
場所 時期	個人宅など	避難所など	災害 VC													
初動期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がれき撤去</li> <li>・安否確認</li> <li>・要配慮者への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所運営の支援</li> </ul>														
中期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家の片づけ</li> <li>・物資の配給</li> <li>・屋根のブルーシート張り</li> <li>・ペットの世話</li> <li>・外国人対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炊き出し支援</li> <li>・物資の仕分け、配付</li> <li>・高齢者支援</li> <li>・子どもの世話</li> <li>・物資集積所の活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害 VC の運営支援</li> </ul>													
後期		<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所からの移動介助</li> </ul>														

## 視点Ⅰ 多様な主体との連携強化に向けて

### 4 今後の検討事項

- 災害 VC の運営体制について検討する。
- 災害 VC の立上げについては、ボランティアの募集を含め、更に検討を進める。
- 現地におけるニーズの収集方法やコーディネーターの役割、災対区民部と災害 VC 間の情報共有方法について検討する。

<b>1 検討課題</b>
(1) 災害対策本部編成員の参集状況の把握方法及び交代体制の検討 (2) 中・長期にわたった場合の避難所運営にかかる人員体制のあり方

<b>2 検討内容</b>
<第1回 WG> 検討課題について、熊本地震の被災地の状況と区の現状を説明し、部会員との共有を図った。 <第2回 WG> 区の災害時の職員体制（災対本部・避難所）及び参集可能人数についての現状を確認した。 <第3回 WG> 区職員の就寝スペースや相談体制等の執務環境等について検討を実施した。

<b>3 検討結果（主な意見など）</b>
<災害対策本部編成員の交代体制等について> （職員の勤務ローテーション） <input type="checkbox"/> 職員の勤務ローテーションは、初動期においては職員の帰宅方向別に交通機関等の情報を整理した上で、決めていく必要がある。 <input type="checkbox"/> 他自治体からの応援職員との関係の中で、災対本部において応援職員が判断の必要な業務を担うことは難しいため、その点を踏まえてローテーションを検討する必要がある。 （職員の就寝スペース） <input type="checkbox"/> 発災後概ね3日目までの職員の就寝スペースについては、各職場や自身のデスク回り等を基本とする。また、女性用として、職員休憩室や職員図書室等の利用を検討する。 <input type="checkbox"/> 職員の就寝環境の向上のために寝具類等を確保する必要がある。 （職員の相談体制） <input type="checkbox"/> 災害対応業務が長期にわたった場合、職員の心身の健康維持のためには、精神科医、臨床心理士、保健師などによる相談体制が必要となる。区職員にも有資格者がいるが、災害業務への従事が必要であることから東京都や他自治体との広域的な連携による受援が必要となる。

<b>4 今後の検討事項</b>
<input type="checkbox"/> 災害対策本部編成員の参集状況の効率的な把握方法について具体的な検討を行う。 <input type="checkbox"/> 職員の勤務ローテーションや帰宅ルールについて具体的な検討を行う。 <input type="checkbox"/> 避難所における職員の勤務ローテーションや夜間体制について検討を行う。



<b>1 検討課題</b>
(1) SNS等の活用による最新情報の提供

<b>2 検討内容</b>
<p>&lt;第1回 WG&gt;                  検討課題について、熊本地震での状況や区の現状を説明するとともに、他自治体における SNS の活用事例について、部会員との共有を図った。</p> <p>&lt;第2回 WG&gt;                  災害情報のうち、SNS で発信していくべき情報について整理するため、初動期（72 時間まで）にかかる情報について、SNS 又はホームページ（以下、HP）のどちらの手段を用いて発信すべきか検討した。</p> <p>&lt;第3回 WG&gt;                  第2回 WG に引き続き、中期（72 時間以降）・後期（1 週間以降）にかかる情報について、SNS 又は HP のどちらの手段を用いて発信すべきか検討した。</p>

<b>3 検討結果（主な意見）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 現状では Twitter 等の SNS は、情報の錯綜を防ぐため、一つのアカウントから発信し、統一的な内容とする必要がある。</li> <li><input type="checkbox"/> SNS の即時性や拡散性等の性質を勘案し、初動期から中期を中心とした活用を図っていく。</li> <li><input type="checkbox"/> HP は災害モードに変更して情報の更新を行い、SNS では情報の概要及び HP の閲覧へ誘導する情報を配信していく。</li> <li><input type="checkbox"/> HP（災害モード）について、あらかじめ掲載する情報の項目分けを準備しておく必要がある。</li> <li><input type="checkbox"/> あらかじめ配信する情報のひな形等を準備しておく必要がある。</li> </ul>

<発信情報の整理結果>

情報伝達手段 災害時期	SNS 及び HP で発信する情報	HP で発信する情報
初動期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路啓開・火災等の二次災害</li> <li>・地震情報・被害状況</li> <li>・ライフラインの状況</li> <li>・避難勧告等・交通規制情報</li> <li style="text-align: right;">他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所開設状況</li> <li>・災害の発生状況</li> <li>・医療機関情報</li> <li style="text-align: right;">他</li> </ul>
中期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの募集</li> <li>・治安情報 ・安否情報・流言対策</li> <li>・ライフライン、交通機関の復旧状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食糧の配給状況</li> <li>・生活物資の配給状況</li> </ul>
後期		<ul style="list-style-type: none"> <li>・罹災証明書発行情報</li> <li>・生活再建支援情報</li> <li>・仮設住宅の状況</li> <li style="text-align: right;">他</li> </ul>

### 視点Ⅲ 迅速かつ的確な被災者支援に向けて

#### 4 今後の検討事項

- 整理した情報について具体的な発信内容や発信頻度等、より有効な運用方法について検討を行う。
- SNS 等を用いた外国人への情報提供について検討を行う。

<b>1 検討課題</b>
<p>(1) 物資集積拠点の円滑な運用方法についての検討</p> <p>(2) 物資集積拠点における人員体制及び集積・輸送体制の整備</p> <p>(3) 避難所との連絡体制及び物資の管理体制の整備</p>
<b>2 検討内容</b>
<p><b>&lt;第1回 WG&gt;</b></p> <p>検討課題について、熊本地震での状況や区の現状を説明し、部会員との共有を図った。なお、WGでは、主たる物資集積拠点となるスポーツセンターについて検討することを確認した。</p> <p><b>&lt;第2回 WG&gt;</b></p> <p>スポーツセンター駐車場への大型トラック搬入実験の映像を確認するとともに、スポーツセンターの図面を用いて、物資搬入の動線やゾーニングについて検討を行った。</p> <p><b>&lt;第3回 WG&gt;</b></p> <p>第2回 WG で検討した動線やゾーニングに対する意見を参考に、具体的な物資の保管方法や物資の搬入から搬出に至るまでの業務の流れ等について検討した。</p>
<b>3 検討結果（主な意見）</b>
<p><b>&lt;物資集積拠点の円滑な運用方法について&gt;</b></p> <p><b>（物資搬入・搬出の動線）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 搬入物資は、10 tトラックで輸送されることを想定し、駐車場側正面入り口より搬入する。</li> <li><input type="checkbox"/> 物資の搬出にあたっては、壁打ちテニスコート側の扉より搬出する。輸送に当たっては、2～4 tトラックを使用し、各避難所へ輸送する。</li> <li><input type="checkbox"/> 物資の搬入・搬出に有効な資器材として、ハンドリフト、かご台車、パレットなどを準備する。</li> </ul> <p><b>（物資のゾーニングと管理）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> スポーツセンター内のアリーナ部分をブロック分けし、物資の種類ごとにゾーニングを行う。その際に、物資の輸送頻度などを勘案し、保管場所を決める必要がある。</li> </ul> <p><b>&lt;ブロック分け（案）&gt;</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① 食べ物、②寝具類、③生活用品、④紙類・タオル類、⑤生理用品・幼児備品、⑥備品類</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 飲料水については、アリーナ部分の耐荷重を考慮し、屋外で保管する。</li> </ul> <p><b>&lt;物資集積拠点における人員体制について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 物資の管理を円滑に行うため、正面入り口、アリーナ入口、アリーナ出口の3箇所に搬入・搬出物資の内容確認や保管場所の指示等を行うコーディネーターを配置する必要がある。</li> <li><input type="checkbox"/> コーディネーターの役割は専門的な知識や経験が必要となるため、「東京都トラック協会文京支部」への依頼を検討する。</li> </ul>

### 視点Ⅲ 迅速かつ的確な被災者支援に向けて

#### 4 今後の検討事項

- 物資集積拠点の職員体制について、本部機能、必要人数、受援等を含めて検討する。
- 避難所までの輸送ルートなど円滑な物資輸送を行うために必要な手法等を検討する。
- 避難所からの有効な物資の配送依頼方法や物資の在庫状況等の共有方法について検討する。
- スポーツセンター以外の物資集積拠点の体制については、別に検討する。

**1 検討課題**

- (1) 避難所における健康管理体制及び応援体制を含めた職員体制の構築について
- (2) 避難所以外への避難者の健康管理について

**2 検討内容**

<第1回 WG>

検討課題について、熊本地震の被災者の状況や区の現状を説明し、課題の共有を図った。

<第2回 WG>

避難所における健康管理と感染症予防について、災害の段階ごとに洗い出しを行った。

<第3回 WG>

避難所における健康管理体制及び感染症予防体制について、災害の段階ごとに整理した業務に関して初動体制や巡回体制を議論した。

**3 検討結果（主な意見）**

<避難所における健康管理体制について>

（保健活動）

- 保健師等の専門職が行うべき業務について、業務内容や実施時期などを確認した。
- 初動期においては、全ての避難所を1日で巡回できるような体制をつくる必要がある。
- 中期以降は避難所の巡回については、受援を前提に検討する必要がある。

（感染症予防）

- 避難所内で土足禁止とするエリアを開設時に区画しておく必要がある。
- 体調不良者については、避難所の受付で把握し、専用の居住スペースを設けるほか、トイレも使用を分ける必要がある。
- トイレの衛生管理が重要であり、避難所開設時に的確に行う必要がある。

（食事の提供）

- 食事の提供においては、中期以降は栄養管理の視点が必要である。
- 食事の提供においては、アレルギー対応を行う必要がある。

**4 今後の検討事項**

- 避難所の巡回に係る受援体制について、検討を行う。
- 避難所に設置する「救護衛生班」等との役割分担は、今後検討を行う。
- 避難所以外への避難者の健康管理について、標準的な巡回体制や指導内容を引き続き検討を行う。

<p><b>1 検討課題</b></p>
<p>(1) 指定避難所の収容人数が超過した場合の対策                  (2) 避難所以外への避難者の対応                  (3) 避難所における要配慮者の対応                  (4) 避難所の縮小・統合の手順</p>
<p><b>2 検討内容</b></p>
<p>&lt;第1回 WG&gt;                  検討課題について、熊本地震の被災地の状況や区の現状を説明し、課題の共有を図った。                  &lt;第2回 WG&gt;                  区有施設について、二次的な避難所として開設の可能性を検討した。                  &lt;第3回 WG&gt;                  避難所について、閉鎖や統合の手順などを議論するとともに、統合先になる避難所について、施設要件、移動方法などを議論した。</p>
<p><b>3 検討結果（主な意見）</b></p>
<p>&lt;指定避難所の収容人が超過した場合の対策について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 二次的な避難所の施設として、現行の地域防災計画に掲げる施設のほか、地域活動センター、区民会館、地域アカデミー等を検討する。</li> <li><input type="checkbox"/> 施設の使用に当たり、施設の安全確認の方法を検討する。</li> <li><input type="checkbox"/> 二次的な避難所については、食料、飲料水、毛布などの備蓄品や開設準備・運営に携わる要員の配置なども検討する。</li> <li><input type="checkbox"/> 二次的な避難所の候補施設について、施設ごとの特性を踏まえ、避難者を誘導する方法などを検討する。</li> </ul> <p>&lt;避難所の縮小・統合の手順について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 縮小・統合後の避難所については、被災者ニーズや施設の用途を勘案して決定する必要があり、総合体育館、江戸川橋体育館、地域活動センター、地域アカデミー等を検討する。</li> <li><input type="checkbox"/> 縮小・統合後の避難所の運営に当たっては、職員の再配置が必要となる。</li> </ul>
<p><b>4 今後の検討事項</b></p>
<p>○二次的な避難所及び縮小・統合後の避難所については、避難所の運営主体やルールの見直しが必要となる他、指定管理者等施設を管理する者との調整が課題となる。                  ○避難所以外への避難者や避難所における要配慮者の対応については、引き続き検討を行う。</p>

<b>1 検討課題</b>	(1) 罹災証明書発行業務に係る応援職員を含めた職員体制の構築 (2) 罹災証明書等の業務手順の整備消火器
<b>2 検討内容</b>	<第1回 WG> 検討課題について、熊本地の被災地の状況や区の現状を説明し、課題の共有を図った。 <第2回 WG> 東日本大震災の被災地で建築被害認定調査（現、住家被害認定調査）に従事した職員から報告を受けるとともに、職員防災行動マニュアルに基づき業務の進め方を確認した。 <第3回 WG> 東京都が進めている生活再建支援システムに関する研修を受講した職員から報告を受けるとともに、他自治体の住家被害認定調査マニュアルを参考にして業務の進め方について議論した。
<b>3 検討結果（主な意見）</b>	<罹災証明書発行業務の前提となる住家被害認定調査について> □ 住家被害認定調査は、町丁目を単位とし、2人1組でおこなっていく。調査に当たっては、実施計画書の作成が必要となり、業務内容については、引き続き検討を継続していく。 □ 住家被害認定調査では、大規模災害時には区内の住家を全棟調査することが前提となっており、区の職員だけでは対応が困難となるため、他自治体などへ受援要請することは必定である。 □ 家屋データを収集する上で、固定資産税台帳の情報は不可欠であり、都税事務所との連携が必要である。 □ 国が示す「災害に係る住家の被害認定基準運用指針」については、広範な記述となっており、効率的に調査を行うためには、概要版を作成する必要がある。 <罹災証明の業務手順について> □ 区は、多くの災害対応業務を同時に進めていくため、受援計画についても、必要になる業務等をタイムラインとともに、検討していく必要がある。
<b>4 今後の検討事項</b>	○住家被害認定調査については、受援計画を含め、調査体制の構築を検討していく。 ○罹災証明書等の業務手順の整備については、引き続き検討を進めていく。

## 視点V その他 防災課・危機管理課の検討事項

### 1 検討課題

- (1) 災害対策本部の機能の強化（15階防災センター及び5階補完機能）の検討
- (2) 避難所の受入れ可能数の算出見直し
- (3) 備蓄物資の充実・見直し
- (4) 東京都被災者生活再建支援システムの導入
- (5) 災害時事業継続計画（BCP）の検討
- (6) その他

### 2 検討状況

#### <災害対策本部の機能の強化>

- 5階における災害対策本部の補完機能について検討するため、災害対策各部の業務内容と実施場所の整理を進めるとともに、本部機能の維持に必要な業務と機器についての検討を行っている。

#### <避難所の受入れ可能数の算出見直し>

- 避難所ごとに学校防災計画やレイアウトを確認の上、受け入れ可能数の試算を始めている。

#### <備蓄物資の充実・見直し>

- WGでの検討や、避難所総合訓練の実施結果等から、更なる整備が課題とされた分野に関し、備蓄物資の整備を行うための具体的な検討を進めている。また、備蓄倉庫の棚卸しを専門事業者に委託して、備蓄物資の品質評価等を行っている。

#### <東京都被災者生活再建支援システムの導入>

- 東京都被災者生活再建支援システム利用協議会の研修に参加するとともに、システム導入に向けた庁内の手続きを進めている。

#### <災害時事業継続計画（BCP）の検討>

- BCPについては、職員防災行動マニュアル等の内容と関連するため、それらを検討する中で対象事業の見直しを含め検討する必要がある。

#### <その他>

- 避難所総合訓練の実施から、避難所の迅速かつ円滑な開設のため、避難所開設キットの導入について検討を行っている。

### 3 今後の検討事項

- 災害対策本部の機能強化については、関係各課と協議の上、必要な手続きを行っていく。
- 避難所の受入可能数の算出見直しについて、各避難所の状況を勘案し算出していく。
- 備蓄物資の充実・見直しについては、必要な物資の整備を進めていく。
- 被災者生活再建支援システムの導入について、システム導入に向けた手続きを行っていく。
- BCPについては、職員防災行動マニュアル等を検討する中で見直していく。
- 避難所開設の避難所開設キットについては、必要な仕様について検討を行う。